

中酪情報 No.582

2019年7月31日発行
毎号奇数月末発行

発行：一般社団法人 中央酪農会議
編集・発行人：寺田 繁
〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町2-6-1
TEL:03-6688-9841 FAX:03-6681-5295

ご意見・ご感想をお寄せください。

読者の皆さまにもっと本誌をご活用いただきたく、より良い誌面作りに向けて努力してまいります。本誌へのご意見やご要望、ご感想がございましたら、電話・FAX・ホームページにて下記の「中酪情報」編集部までお寄せください。皆様のご意見・ご感想をお待ちしております。

宛先及びお問合せ先

〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町2-6-1
一般社団法人 中央酪農会議「中酪情報」編集部
TEL:03-6688-9841 FAX:03-6681-5295
<http://www.dairy.co.jp/>
(中酪HP「お問い合わせ」ページよりアクセスできます)

編 集 後 記

豪州の政府系シンクタンクであるABARE（豪州農業資源経済局）によると、同国の2018/19年度（18年7月～19年6月）の酪農収入は、前年比42.2%減の9万3,000豪ドル（約724万円）と大幅に減少する見込みである。酪農収入は総売上高から総費用を差し引いた金額であるが、干ばつで牧草の収量が低下したのに加え、飼料と水の価格が高騰したことが大きく影響した。

豪州では国際市況の悪化に伴う支払い乳価の引き下げで、2015/16～2016/17年度にかけて酪農収入が低迷したが、2017/18年度は乳価の回復と生乳生産量の増加で酪農収入が大幅に改善した。しかし、2018/19年度の酪農収入の急減で、営業利益も前年度の9万2,700豪ドル（約722万円）の黒字から、5万5,000豪ドル（約428万円）の赤字になる見込みである。

このような状況の中、乳牛の淘汰が進み、生乳生産量は2018年6月以降前年を下回って推移している。乳価はわずかに上昇しているものの、コストの増加で相殺されており、乳牛淘汰の影響によって生乳生産の低迷が長期化するとみられている。豪州はニュージーランドと並んで、わが国に対するチーズの主要輸出国であることから、今後の生乳生産の動向が注目される。